



ヨーロッパハウスの文字が象徴的な外観。上は住居棟となっている

EUが麻布にやってきた 新拠点 ヨーロッパハウスがオープン



1 住居棟の各戸はすべて間取りが異なる。
2 EUの星がまぶしい駐日欧州連合代表部
3 左手がオフィス棟 右が住居棟



広尾駅から徒歩7分ほど、南部坂を登りきった南麻布4丁目、5丁目の高台には、有栖川宮記念公園を取り囲むように大使館、病院、福祉施設など、瀟洒な建物が散在する。その一角に、駐日欧州連合(EU)代表部の新しい拠点「ヨーロッパハウス」が新築・移転して、1年が経つ。詳細を取材した。

土地からの購入は世界初

EUとは European Unionのこと。日本では欧州連合とよばれる。本部はベルギーの首都ブリュッセルにあり、現在27か国が加盟している(2013年7月にはクロアチアが加盟予定)。EU代表部は世界各国にあり、駐日代表部は1974年に千代田区三番町に開設された。オフィス、大使公邸、職員住居など関連施設はすべて賃貸契約。仕事効率の向上と、EUと日本の関係の重要性に鑑み、2003年、施設の完全所有を目標とした取組を開始。2006年に南麻布の国有地(元自治大学)を購入するに至る。設計担当はパリ空港公園の子会社ADPIと大成建設の合同プロジェクトで進められた。

敷地面積約3330m²の新拠点となるヨーロッパハウスは地上4階、地下1階のオフィス棟と地上6階、地下1階の住居棟からなる。EUが代表部のために独自に土地の購入から施設の建設まで携わるのは世界初という。

持続可能性を重視した建築物

建物全体の特徴は持続可能性(サステナビリティ)をコンセプトにしている点である。環境に配慮して、住居棟屋上には太陽光発電パネルを設置。最大18.3kwの発電が可能で、施設内の省エネに貢献。また、雨水再利用装置や光センサーによる照明制限など、細部に渡り配慮が行き届いている。

住居棟とオフィス棟を敷地内に建設したのも、初の試みである。住居棟はブロンズ銅板で覆われ、その銅が緑化して銅緑色となり、何年か先には隣接するオフィス棟や木々の緑と一体化することをイメージしている。

職住一体型の建設計画について、当初、職員の中には不安を抱く者もいた。ところが、いざ移転した現在、好評に転じているという。一体型であっても、職と住がしっかり分かれ、スタッフにとって、この上なく心地よいらしい。住居棟最上階は大使公邸となっている。外交官用には間取り、広さ、外観の異なる約20戸の住居がある。外から見えるロジヤ(バルコニー)の配置を見ても、統一性がなくバラバラなのがよくわかる。これこそがEUスタイルであり、ヨーロッパの多様性をコンセプトとしている由縁だという。建物においても特定国をモデルにすることを、取上げて避けている。

現EU大使は元駐日オーストリア大使(1999~2003)を歴任、同国外務省の外交官を務めた。EU公使(No.2)は女性。アイルランド外交官で同国外務省から選ばれて出向。2人とも現在はEUとの雇用関係にある。現在外交官は10カ国、15名がEUの組織から赴任している。

今後、年に1回程度はオープンデーを開催していきたい

オフィス棟には大使以下、約50名の職員の個室の執務室がある。また、4カ国同時通訳が可能なブースを持つ200名収容の大会議室(講堂)、小会議室も充実している。今年5月のオープンデーでは一般にも公開され、大盛況だった。今後は予算次第だが、年に1度は広く開放するオープンデーを設け、日本との友好をさらに深めたい考えだ。私たちが期待して、EUに関心を持っていきたい。



4



5



6



7



8

4 入口脇のロビー ユーロ札のデザインや各国のコインなどが展示されている。
5 各国から寄贈されている絵画や、彫刻などが各所に飾られている。ハンガリー大使館提供の絵画。
6 EU加盟国の国旗が並び、4カ国同時通訳可能なブースを配した講堂。
7 もうひとつの会議室では、加盟国外交官を交えた会合などが毎週のように行われている。
8 2つの棟に囲まれる様に、中庭があり、職員の憩いの場となっている。

麻布びと

未来へ残したい麻布の声



赤羽美代子さん



赤羽橋と飯倉をつなぐ坂途中にあるその店に一步入ると、そこはまるで山中の避暑地のような静けさと室礼に迎えられる。戦後の歴史に登場する多くの文人や著名人が通ったもてなしの場鷹匠料理「あか羽」。叔母と父母から引き繋がれた東麻布の赤羽美代子さんにお話を伺った。

鷹匠のもてなし文化を継承する東麻布の奥座敷

そもそも、美代子さんの叔母さま梅子さんの交友録が始まりである。宮内庁に伝わるお狩り場での遊びの後、その獲物をその場で味わい堪能したのが鷹匠料理。梅子さんは宮内庁のご友人に誘われ、そのご縁から昭和23年10月、元宮内庁狩猟頭で当時皇太后太夫であった故坊城元伯爵の立会いのもと、東京赤坂福吉町にて創業。昭和43年12月現東麻布一丁目に移転してきたとのこと。



創業当時の店内の様子



創業当時のしおりなど。

鷹狩りを趣味としていた梅子さんと美代子さんとの店を切り盛りしていたそうで、お殿様をもてなす鷹匠のような気遣いや室礼に魅了され、多くの著名人や文人が通っていた。なんといつても当時週間朝日徳川夢声さんの対談はいつも「あか羽」であったと聞けば、毎回のゲストが訪ねたことになる。子どもの頃、対談のある日は学校から帰ると「静かに静かに…」と両親にたしなめられた記憶があるという。

赤羽梅子さんと相棒の鷹：当時はお店にこの鷹もいた。

また写真好きの梅子さんのこと。数々の写真が残されてはいるものの、掲載ができなためその名前を挙げればきりが無い。

井上靖、越路吹雪、イサムノグチ、谷川徹三、土門拳、志賀直哉、柴田錬三郎。

パールバック来日の際には、瀬戸内晴美、曾野綾子、宇野千代さんがそろいも揃った写真まで。



また美代子さんのご両親も火縄銃の名士。火縄銃のコレクターでもあり、現在松本城の天守二階にある「松本城鉄砲蔵」は、美代子さんのご両親が赤羽コレクションとして寄贈したものである。

お話を伺いながらも都度その歴史に驚く私たちに、つねに控えめな様子であるが案内していただいた個室の室礼から、いくつかそのおもてなしの空間について尋ねてみると…

「こちらの簾戸はやはり季節で替えるのですよね？床の間のお軸は季節で替わるのですか？」

「はい、毎月季節に合わせて替えていますよ。季節が変われば、替えないわけにはいきませんでしょ」「えっ、お部屋が六つに十二月月ならお軸は…」

季節の室礼を整える軸や簾戸、座布団が部屋分、全てを管理しなければならない。この手間を「あたりまえのことです」と平然と話す。

全てはいらっしゃるお客様へのもてなしの気持ち。お殿様や宮内庁の方々をもてなすその心遣いは、叔母や両親より美代子さんへと現在の「あか羽」に脈々と息づいている。



火縄銃の大会で優勝した記念賞状



涼しげな滝の風情のお軸と火縄銃

普段、知らずにその店の前を素通りしていたが、何故かその看板にただならぬ気配を感じていた。大通りに面した東京タワー近くの喧噪からふと足を踏み入れると、そこは東麻布の奥座敷。お殿様やご要人、文化人や著名人をもてなす鷹匠ならではの社交場があったこと。そして今でもその精神を受け継いで、日本の季節のおもてなしのこころを伝える麻布びとがいっぱいいること、是非多くの皆さんに語り継いでゆきたい。



夏の室礼の簾戸は各部屋全てに掛ける。その差込む光りと陰が涼しげで、避暑地のような静けさ。



鷹匠料理とは…

昔、鴨場でお殿様に鷹匠がもてなしたのが鷹匠鍋。鷹匠が狩りの終わった野山で獲物を食するため腰に下げていた重さ2キロほどの鉄製の鍋で調理した品。



麻布永坂町、麻布台を歩く

今回のあざぶさんぽは、ちいばすの麻布ルートを巡ります。新一の橋交差点の蕎麦屋③から大通りを渡って永坂を上ると、高い石垣の広大な邸宅が見えてきます。参議院副議長公邸①です。徳川家屋敷があった所です。

さらに坂を上った右手の石段②を登ると、閑静な住宅地が広がります。見事な大木のそびえる大邸宅があり、林の中にはブリヂストン美術館永坂分室③があります。道なりに進んで、突き当たりを左に上ると、外苑東通りに出ます。

通りの向こう側には外務省飯倉公館・外交史料館と、その右手に郵政グループ・麻布郵便局が入る建物④が見えます。右・東方向に歩くと、狸穴坂の手前にナミビア共和国大使館が入る建物⑤があります。

狸穴坂の向こうがロシア連邦大使館です。大使館の東端を右に入った先に、東京アメリカンクラブ⑥があります。

道の行き止まりの、かつて東京天文台のあった所に日本経緯度原点の立て札と石碑⑦が

立っています。今回の東日本大震災の地殻変動による改定数値も記されています。

左手にはアフガニスタン大使館⑧が静かな佇まいを見せています。

桜田通りに抜ける坂を下ると、東京タワーが目の前に。右手のビルの入り口に玄孫サイズのタワーが寄り添っています⑨。

桜田通りに出て坂を上ると、飯倉交差点あたりに麻布のランドマーク、フィジー共和国大使館の入るNOAビル⑩が建っています。

帰りのちいばすの停留所は飯倉片町交差点のすぐそばです。港区役所方面行きは⑥、広尾駅方面行きは①です。

永坂から飯倉片町までの上り下り満載の坂道は小さな冒険でした。膝に自信のない方はゆっくりお出かけください。

決して無理なさいませんにように。



(取材/出石供子、折戸桂子 文/折戸桂子)



とにかく体を引き締めたい、あの水着が着たい、結婚式が近い...等々、多様な顧客のニーズに親身になって応えるというパーソナル・トレーナー 志水浩二さん

世の中にはいろいろな仕事があります
パーソナル
トレーナー

子どもに生きていく力を KIDS! ハローワーク



何か部活で運動やってる?もっとうしたい、と思うことある?...初めにカウンセリングされる中学生記者たち

理想の身体に近づけるため、親身にサポート

今回のテーマはパーソナル・トレーナーのお仕事です。港区立高陵中学校2年生2名が、トレーニングジム「トータル・ワークアウト」(六本木)のパーソナル・トレーナー志水浩二さんにお話をうかがいました。

- ◎ **どんなお仕事ですか?**
お客様が望む理想の身体に近づけるようマンツーマンで取り組み、実現していきます。例えば、スポーツをしている人が「どうして～が出来ないのだろう」と悩みを抱えていたら、弱点をいっしょに見つけ、目標から逆算し、トレーニングや食事のメニューを提案します。ちなみに、代謝のいい筋肉質の身体になるには、脂肪の少ない赤身の肉、とくに鶏肉がおすすめです。
- ◎ **なろうと思った動機は?**
プロ野球選手になるのをあきらめかけた高校生の頃、清原和博(当時プロ野球選手)の「肉体改造」をしたケビン山崎氏の記事をスポーツ誌でたくさん見て憧れたからです。プロの選手をサポートして活躍させる側の仕事に興味をもったのです。
- ◎ **どうしたらなれますか?**
特別難しい資格が必要なわけではなく、なろうと思えばなれます。大事なのは①トレーニング方法の技術を持っていること、②お客



トレーニングマシンに囲まれてお話をうかがいました。

様とコミュニケーションがとれて一生懸命に考えることが出来ること、です。お客様が何をどうしたいのか、沢山聞いて理解することにはいつも気を付けています。

- ◎ **どんな人が向いていますか?**
向き不向きというのはよくわかりませんが、やり続けることが出来れば好きになります。失敗すれば工夫して得意になれます。色々なことを試行錯誤できる人が向いていると思います。
- ◎ **仕事を通して嬉しかったこと、苦労したことを教えてください。**
つい先日、担当していた方が、ある格闘技大会で世界チャンピオンになり、すごうれしかったです。苦労する点は、自分が体験したことのないスポーツの領域なども想像しながらトレーニングしていくことなどです。
- ◎ **後輩へのメッセージを。**
最初は誰でも未熟です。でも言われたとおりのことだけをやるのではなく、新しく自分で考えたやり方を提案出来るような後輩が出てくるのを待っています。



太ももの筋肉を鍛えると効率的に代謝が良くなり、腹筋も割れてくるそうです。とはいえ、ジムのランニングマシンの傾斜とスピードは手ごわく、ころばずにそろそろ進むのが精いっぱい(左)。一方、跳ぶような志水さんの走りに感心する2人(右)。

(取材・文/福岡央翔、福田昭光 取材サポート/石山恒子、大村公美子)



フィジー共和国
 面積： 1万8,270平方キロメートル(四国とほぼ同じ大きさ)
 人口： 約87万人(2011年、大使館提供)
 首都： スバ
 民族： フィジー系(57%)、インド系(38%)、その他(5%)
 言語： 英語(公用語)の他、フィジー語、ヒンディー語を使用
 宗教： フィジー系はほぼ100%キリスト教、インド系はヒンズー教、回教。
 全人口に占める割合はキリスト教52.9%、ヒンズー教38.2%、回教7.8%

政体： 共和国
 元首： ラトゥ・エペリ・ナイラティカウ大統領(2009年11月就任)
 議会： 2院制 上院：議員数32名、任期5年(解散あり)。下院解散時には上院も解散。
 下院：議員数71名、任期5年(解散あり)

外務省ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/fiji/data.html>より

イシケリ・ウルイナイライ・マタイトガ特命全権大使

取材協力/フィジー共和国大使館



フィジー共和国

大使を訪ねて 20 麻布の"世界"から



Fiji

写真提供: フィジー政府観光局

クリスタルに輝く海と、あふれるフィジアン笑顔に魅せられて



南太平洋のほぼ中央に位置するフィジー共和国。四国ほどの大きさ、1万8000km²の国土に約300の島が点在する。約87万人の人々が住む島は、約100島。エメラルドの海に囲まれた自然美が残る国の魅力と、日本との関係などをイシケリ・ウルイナイライ・マタイトガ(H.E. Mr. Isikeli Uluinairai MATAITOGA)特命全権大使にインタビューした。



開口一番「BULA(ブラ)」で挨拶

BULAはフィジー語で、こんにちは、こんばんは、すべての挨拶に使う言葉。夏期間の金曜は「ブラタイム」と称し、ノーネクタイデーである。フィジーの自然をモチーフにデザインされたシャツ姿の大使とお目にかかったのは、たまたまブラデー(ブラタイム)。

弁護士でもあるマタイトガ大使は、オーストラリア、シンガポール、ベルギーなどでの大使や本国での高等裁判所裁判官を務めた後、日本に赴任して3年目。夫人とお孫さんの3人暮らし。麻布台の大使館の徒歩圏に住む。六本木も近く便利で、遊びには困らないし、ご家族も気に入っていると気さくな笑顔のをぞかせる。

フィジー共和国大使館は日本のみならず、フィリピン共和国・ロシア連邦との外交業務も担当しているので大使の仕事は多岐に渡る。そんな多忙な毎日を支える秘訣は筋力トレーニング。近隣のスポーツジムでの運動を通じて、日本人との出会いや触れ合いを大切にしているそうだ。

『絆』を強調する友好的な対応

フィジー共和国は1970年の独立以来、日本との外交関係を結び、1981年に開設された大使館もオープンな雰囲気だ。小・中・高校生の訪問は特に歓迎しているとのこと。先日、広島の高校生が修学旅行で訪問してくれた、と大使は嬉しそうに語ってくださる。「もちろん、港区民の方の訪問も大歓迎」、フィジーの伝統文化について知ってもらって理解と友好を一層広めたいと思っていच्छる。

そんな思いは、日本各地との草の根の交流を深める大使の行動力にも反映されている。特に、昨年の東日本大震災及び津波被災学生への人道支援としてフィジーへの奨学生プロジェクトを実施しました。また沖縄との友好も深く、海洋諸島であること、経済や環境などフィジーと共有するものが多いので、親近感を感じるそう。(男女平等推

進にも力を入れておられ、栃木県高根沢町の女性団体をフィジーへ招聘したことをはじめ、双方の女性団体の交流を進めたいと熱く語られた。)今年3月にフィジーが洪水に見舞われた時には日本からの援助を受け、大使は『絆』という日本語を強調された。

大使の好物はお刺身

親日家の大使は、日本食は何でもいただくそう。特に刺身には目がないという。「その魚介類はフィジーから輸入されているものが結構多いですよ」と大使は嬉しそう。私たちは知らずにフィジーの海の幸の恩恵に預かっている。フィジーの料理を食べることが出来るレストランは大阪に1店あるそうだが、特に不便は感じないという。

フィジー共和国の主な産業は、砂糖、観光、衣料品、そして世界中から愛されているミネラルウォーター「フィジーウォーター」がある。

衣料品は、英国統治下にあった影響で、輸入した生地を縫製する技術が高いことで有名。英国スタイルのフォーマルスーツの一部は、フィジーから輸出されている。

観光はいうまでもなく、紺碧の空と海、完璧なホスピタリティで世界有数の観光立国である。大使にお薦めスポットを伺うと「すべてとお答えしたいが、ひとつあげろ、というのであれば Mana Island Resort(マナアイランド)」とお答えをいただいた。ママヌザ諸島の南西に位置するマナ島は、今でも神が宿る、と伝えられている神秘的な島だという。

フィジーの公用語は英語。多民族国家のフィジーには先住民のフィジー人とインド系フィジー人が共存している。近年日本からは豊かな自然と親しみやすいフィジー人や文化に惹かれて語学留学も増えているそうだ。

親しみやすい大使のお話からフィジーの愛情あふれるホスピタリティに触れる機会をいただいた。地上の楽園と言われる島々を訪れたい、と温かい気持ちで大使館を後にした。



- 1 国内産の100%天然ココナツオイルから作られた手作り石けん。
- 2 フィジーウォーター
太古の火山岩の地下水から濾過された、口当たりの柔らかい中程度の軟水。日本で販売されているフィジーの水はフィジーウォーター (FIJI Water) やアイランドチル (Island Chill) などがあつる。
- 3 ノニジュース
フィジーに自生する果実でビタミンやミネラルが豊富。健康飲料として知られる。
- 4 フィジーの全人口のうち40%を占めるインド人が持ち込んだカレーソースは、日本向けのフィジーの輸出品。
- 5 マシ(masi) [タバクロスとも呼ばれる]
桑の木皮を叩いてなめした和紙の様な手触りのする不織布。茶や黒で描かれる図柄はフィジーの地方や民族によって異なり、結婚式や伝統的儀式の衣装に使われたり、アートとして壁に飾られたりする。大使館の壁も美しい模様のマシで彩られている。
- 6 世界でも類を見ない椰子の木を使った家具で、エコ商品としても知られる。大使館でも使用されている。

Azabu Cool

麻布地区在住、在学、または在勤の外国人の方々に登場いただき、日本の印象をお聞きします。今回は、テンブル大学(南麻布2丁目)に8月まで在籍し、アートを学んでいたアンドレア・ジョンソンさん(アメリカ合衆国出身)にお話をうかがいました。



好きな漢字は迷わず、「龍」だそうです。理由は、「強さ」を感じるのと、「たつ年」生まれなので…



アンドレアさんが卒業展示の際に創作したモノクロ写真制作ポスター

来日のきっかけを教えてください。

出身地であるカリフォルニア州のストックトンという町の仏教徒のコミュニティー活動に参加して和太鼓のおもしろさに出会い、日本に興味を持ったのが始まりです。

最初に日本を訪れたのは2005年で、そのときはツアー旅行で京都や東京を散策しました。

どんな活動をされていますか？

2009年8月に再来日し、この8月までテンブル大学(南麻布)でアート(写真と文章表現)を学びました。また今年3月下旬から4月初旬にかけては卒業論文の一環として原宿で写真の個展を開き、とてもいい経験になりました。日本人の写真家・作家の中では、「空と海(水平線)」を印象的に切り取って魅せる写真家の杉本博司氏、小説「新宿鮫」の大沢在昌氏、「リング」の鈴木光司氏などが好きです。私自身も現在も写真を撮り続け、港区を舞台にした小説も書いています。

日本に来る前と来た後で、印象の違いはありましたか？

来日前の印象は、「文化に興味深いこと」、「静か」、「謙虚」、「丁寧」でこれはその後も基本的にはあまり変わっていません。日本に住んでみて驚いたことは、いい意味で人々がお互いに適度な距離を保って生活をしていることです。見て見ぬ振りという場合もあるのかも知れません。

(埼玉の自宅から南麻布の大学まで)通学電車では印象的な出来事がいくつかありました。オイルサーディン(いわし)の缶詰のようにぎゅうぎゅう(日本語で「すし詰め状態」)に人が折り重なって乗り込む車内、かと思えば譲り合いの結果なのかひとつだけぽっかりと空席が続いたり、また、サラリーマンが酔っ払って眠りこんでも持ち物を盗られない安全さはすごい、と思います。カフェなどで荷物だけ置いて席取りをする様子も、最初は「ありえない！」と驚きましたが、たいていのことには慣れました(笑)。

日本での食事や商品で気に入っているものは何ですか？

大学の課題に追われていてあまり料理を作る余裕はありませんでしたが、とんかつ、やきとり、焼肉、餃子、焼きそばなど一般的な日本の食事は何でも大好きです。アメリカに帰国するときには家族に扇子や畳スリッパなどを買って帰ります。

毎日楽しく過ごしていて、退屈しません。なので、自分が帰国するときには日本で何かを買って帰る、というイメージは未だ湧きません。この先もずっと日本で暮らしたいです。

(取材・文/福本綾子、大村公美子)

※前号「Azabu Cool」文中、パスカルさんが初来日されたのは『18歳』。日本での食事は『納豆と梅干』以外はなんでも食べます、とのことでした。お詫びして訂正します。

地域社会
の
ゆくえ

8

大いに利用したい みなとふれあい館

～社会参加の推進に役立つ講座が充実～

みなとふれあい館
港区南麻布3-19-23
オーク南麻布ビルディングB1
電話:03-5475-1305



入口には看板がないので、要注意。オフィスビル地下1Fにある。

明治通り沿い、四の橋と光林寺の中間のオフィスビルにある「みなとふれあい館」。地下鉄広尾駅のバリアフリー工事により、現在の地に移転したのが、本年5月。運営は公益社団法人 港区シルバー人材センター(以下「シルバー」)である。

事業は大きく2つある。ひとつは、ふれあいカルチャー講座。もうひとつが最新のパソコンを導入しているパソコン教室。どちらも、講師はシルバーに登録してるメンバーが主流となっている。

シルバーのメンバー登録は概ね60歳以上の区民。長年培ってきた技能や知識、経験を講師として再度活かそうという趣旨がある。自己の能力を発揮することで、社会参加、生き甲斐につながっていく。また、講師と生徒という関係であっても、互いに学ぶ楽しさを共感できるというメリットも大いにある。

ふれあいカルチャー講座のカリキュラムは多岐にわたり、生徒に年齢制限はなく、もちろん区外の人たちも大歓迎。キッズ向けにはバレエ教室、入門囲碁教室などが人気だ。

大人向けには生け花、書道、語学、フラダンスなど3か月ごとに講座が更新される。

一方、8人の講師が活躍しているパソコン教室は週7日開講している。無料の体験講座から始まり、見学も自由。スキルアップ講座にはワード、エクセル、さらにホームページ作成など。おさらい講座、個人レッスン、訪問レッスンなど豊富に設けられている。モットーは「ゆっくり・親切・丁寧」。パソコン初心者でも安心して学べる場作りを徹底させている。

パソコン講座では、少子高齢化に伴い、就業機会の確保も目指している。今後、高齢者の社会参加のひとつの手段として、パソコンの基本操作を一緒に覚えましょう、というわけだ。

10月からは、スマートフォンの使い方を学ぶ新規講座を始める予定だ。時代の流れと共に、新しい試みに積極的な事業展開を心がけている。運営のシルバーとしても、社会参加の推進に役立つ事業として位置づけたい、としている。

身近な場所でマイペースで学び、出会うみなとふれあい館の需要は今後増えていくにちがいない。

(取材・文/高柳由紀子)



区内を歩いていると時折 港区教育委員会指定文化財の看板を目にする。

桧町公園の南側、大手企業の社員用住宅の敷地には「志賀直哉居住の跡」が、泉ガーデン内には永井荷風の「偏奇館跡」の記念碑が見られる。また、外苑東通りから星条旗通りに入ったすぐ脇に、“自然主義は龍土軒の灰皿の中から生まれた”と言わしめた「龍土軒跡」(※1)、麻布狸穴町の鮑坂の途中に「島崎藤村旧居跡」(※2)があるように、明治・大正・昭和を通してこのエリアに文豪たちが暮らしていた痕跡は多い。

今回は100年前の麻布を、彼らの書き残した小説や随筆から覗いてみる。

(※1) 建物が建て替えられ、碑は撤去されています。
(※2) 現在は工事中で撤去されています。

文豪たちが残した麻布の景色

麻布の軌跡

明治16(1883)年、父の転勤先 石巻で生まれた志賀直哉は、帰京後十年ほど経った14歳から28歳までの多感な時期、父や祖父一家と共に、麻布三河台町(現六本木四丁目)の敷地1700坪、建坪300坪の広大な家で暮らした。若き日の直哉はこの家で『或る朝』、『網走まで』、『自転車』や『剃刀』を書いている。



志賀直哉居住の跡 看板



志賀邸跡 平成18年 (ミッドタウン前)

増補 写された港区 三 (麻布地区編) ~麻布・六本木ほか~ 港区教育委員会刊(平成19年)

『剃刀』の主人公、六本木に住む辰床の芳三郎は、その名の通り床屋を営む。剃刀を扱う床屋は、龍土町のお屋敷から包丁研ぎの注文を受けるのだが、そのくだり霞町の同業者:良川の名前が登場する。小説とはいえ、実在の町名、理容店の固有名詞が出てきて、地元の者は親近感を覚える。また、志賀家の隣には、枢密院議員で学習院初代院長の大鳥圭介の家があった。夭折したその家の三男は、直哉が『剃刀』の執筆最中に小説のシーンと同様、喉に刃物を当てている。自殺他殺の違いはあるものの、三男絶命の時間に、直哉は刃物の当て方の構想を練っていたというのである。あまり気色のよい話ではないが、他のエピソードにもあるように、直哉には不思議な能力が備わっていたと伝えられている。

明治から昭和にかけ、実業界に身を置きながら、戯曲や小説を書いた水上瀧太郎、本名阿部章蔵 という文学者がいた。父阿部泰蔵は明治生命の創業者、一時期、麻布区議会副議長も務めている。章蔵は明治20(1886)年、飯倉三丁目(現麻布台二丁目)の鬱蒼と木々の生い茂る広い庭に囲まれた黒門のお屋敷で生まれ、4歳までそこで育った。章蔵は慶応予科の頃、永井荷風の「あめりか物語」に感銘を受け、本科進学後、短編小説を執筆。明治43(1911)年に自伝的小説『山の手の子』として『三田文学』に掲載された。ストーリーは、丘の上のお屋敷のぼっちゃん、付き合いを禁じられていた坂下の庶民の子供達と交流していく様子をほろ苦く懐古するものである。この中に今の東麻布の夏の様子が描かれている。

ある日 意を決して坂道を下り、町の子の仲間入りをしてからは、熊野神社の境内と、その向かいのタバコ屋 柳屋の店先がぼっちゃんの遊び場となる。夏になれば、乾いた往来に日に何度か撒水車が現れ、商家の軒下まで濡らしていく。また菅笠をかぶった金魚屋が「めだか、金魚」と声を上げ練り歩き、酒屋の軒にツバメの子が嘴を揃えて巢に啼くなど、江戸情緒の残る明治中期の下町の光景が鮮やかに描写されている。熊野神社の夏の祭礼には、飯倉町内の表通りの軒先に掲げられた提灯が美しく、商家は家業を休んで店先に金屏風を立て、緋毛氈を敷き、遠州流の生花を飾って客を迎える、など今では見られなくなっ

タイトルバック地図
区立港郷土資料館刊
「増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木」
より作成 (平成22年)



麻布森元町 森田恒友スケッチ 昭和2年(大東京繁昌記)
『描かれた港区 補』港区立三田図書館刊(昭和47年)

麻布飯倉熊野神社之図(新撰東京名所図会 明治35年)
『描かれた港区 中』港区立三田図書館刊(昭和49年)

た祭り支度の様子も興味深い。家の奉公人で芝居好きの車夫は、父の勤めが休みの日に、子守りをしながら乳母に内緒で、熊野神社付近の三吉座という小芝居を観に連れて行ってくれた。三吉座の記録はないが、当時麻布森元町には森本座という芝居小屋があった。町家の娘達はその看板役者に熱を上げる様子も克明に描かれており、当時の庶民文化の一端もうかがえる。

大正7(1918)年、フランスから2年前に帰国した島崎藤村は、西久保桜川町(現虎ノ門一丁目)より飯倉片町(現麻布台三丁目)に移り住んだ。妻に先立たれ、洋行中親類に預けた4人の子供を手元に



麻布飯倉にて(五十三歳)
『藤村全集 第9巻』筑摩書房刊より

戻し、子育てをしつつ執筆活動を続け、この家で『夜明け前』を書いている。娘が通学する麻布小学校にクラス担任を訪ねた帰途の永坂の様子が、『ふと見つけた静かさ』というエッセイに書かれている。「煉瓦の塀と石垣の続いた小路に沿って歩いて行くと、ちょうど永坂の途中で

坂道の日当りに心ませた一文である。

藤村は大正12(1923)年の関東大震災を、ここ飯倉で体験した。飯倉片町一丁目までは消失したが、藤村の住居は被災を免れた。激震とその後の大火で変り果てた東京の様子を長野の農学校に学ぶ長男楠雄宛に安否を伝える手紙に記している。「9月2日の朝、私達は自分等の退いた場所において、この町の空をめぐって進んでくる一台の飛行機の響きをきいた。それが私達の臨み見た最初の飛行機であった。多くの電柱は倒れ、郵便局もつぶれ、電車の通路は被災者の集合する場所となった中であっては、私たちはただただ町の空に飛んでくる飛行機を臨み見て、それによってこの激変した形勢が地方に伝えられるであろうと思う他なかった」。また、震災の翌年の夏の酷暑についても『飯倉だより』の中で詳しく触れている。「飯倉の電車通りにある一列の並木は打ちつづく早に乾ききって生きた色もない」と木々の生長を心配し、隣人である勤め人から「この暑さには倒れる会社員も多い」と聞かされ、「震災後は妙に蠅も蚊も多い」と人のうわさに納得し、「寝苦しい多くの夜を飯倉に送ったのもことしの夏だ」と書いている。



島崎藤村二書 大正十二年十七歳のころ
「路地を出た左手の植木坂」
『藤村全集 第9巻』筑摩書房刊より

文豪たちが残した文章から、彼らが愛した当時の麻布の街並みを想像してみるのも楽しい。

参考文献/『ちくま日本文学全43 志賀直哉』志賀直哉著 筑摩書房
『志賀直哉』阿川弘之著 新潮社
『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』港区教育委員会
『増補 写された港区 三 (麻布地区編) ~麻布・六本木ほか~』
港区教育委員会/編 港区教育委員会
『百年文庫61「俤」』ポプラ社
『描かれた港区 中』港区立三田図書館
『描かれた港区 補』港区立三田図書館
『明治の港区 続』港区立三田図書館資料室/編 港区立三田図書館
『藤村全集 第9巻』島崎藤村著 筑摩書房

取材協力/良川真理子さん

(取材・文/出石供子)

港区総合防災訓練(麻布会場)を実施します! ~災害時には、皆さんの協力が必要です~

麻布の地域防災力を上げよう

防災対策は、自らのことは自らが守るという「自助」の考え方、地域において互いに助け合うという「共助」の考え方及び行政が区民等の安全を確保するという「公助」の考え方にに基づき、区、区民及び事業者が相互に連携を図りながら協力することが必要です。

防災に関する正しい知識を身につけ、自分や家族の命、地域を守るためにも、ぜひ防災訓練にご参加ください。

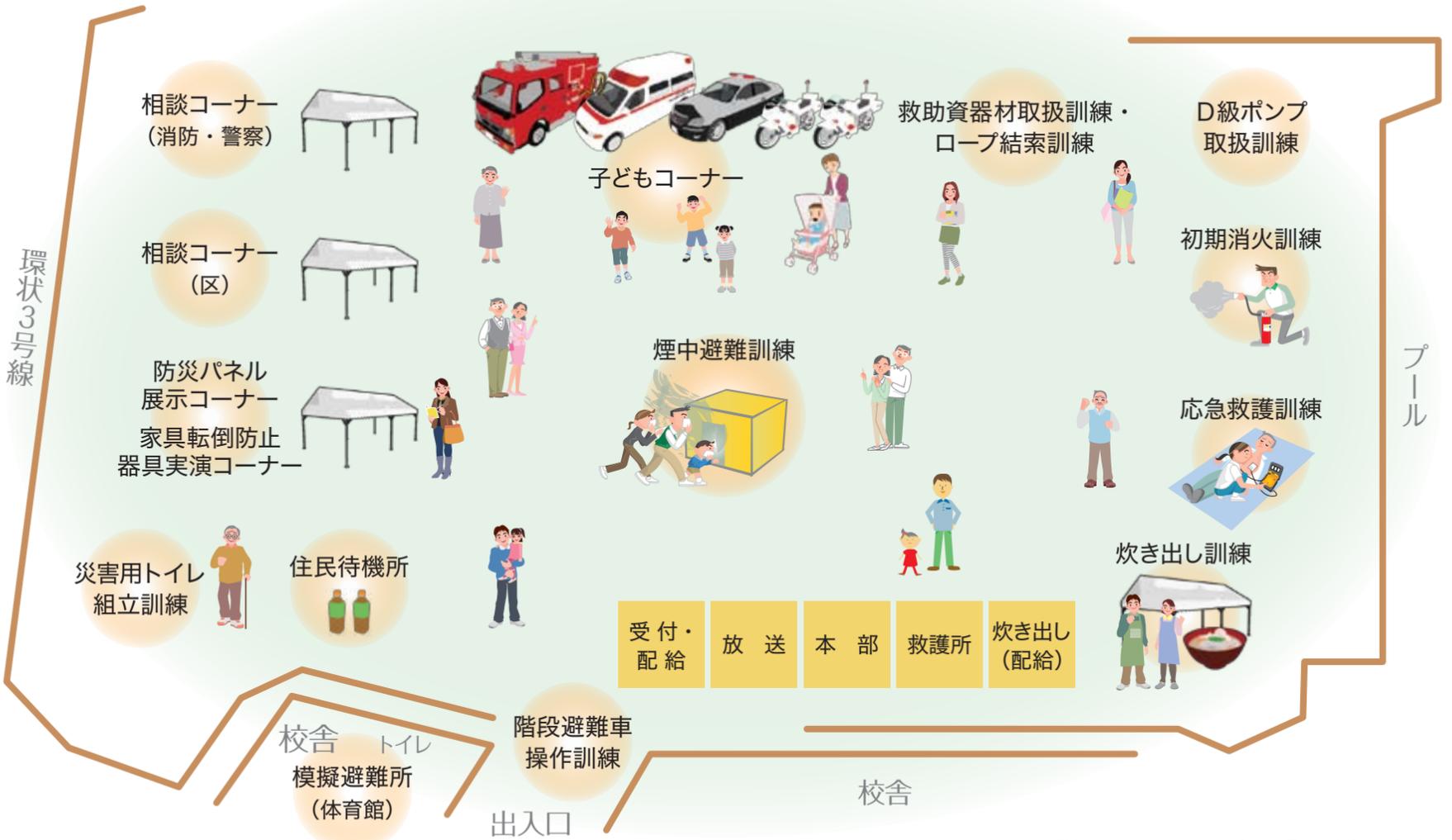


日時 平成24年11月4日(日)
午前9時30分~11時30分
(小雨決行)

場所 港区立六本木中学校

※当日の実施については、みなとコール(5472-3710、午前7時から)へお問い合わせください。当日参加した方全員に防災関連の粗品をプレゼントします。

港区総合防災訓練(麻布会場)案内図 どなたでも参加できます



※当日の訓練内容は変更になる場合があります。

☆放課GO→クラブからのお知らせ

麻布地区総合支所管内では、放課後に児童が、安全に安心して活動できる遊び場や就労家庭の児童の生活の場として、4か所の区立小学校の敷地内で「放課GO→クラブ事業」を実施しています。

利用には登録が必要になりますので、詳細は下記問合せ先にご連絡ください。

放課GO→クラブ なんざん、ほんむら、こうがい、ひがしまち		
	放課GO→クラブ登録	放課GO→学童クラブ登録
対象児童	当該小学校在籍児童及び当該小学校学区内在住児童の1年生から6年生	当該小学校在籍児童及び当該小学校学区内在住児童の1年生から3年生のうち、保護者の就労等の事情で放課後に家庭で保護を受けられない児童 (放課GO→クラブなんざんについては、1年生から6年生が対象)
定員	なし	あり(放課GO→クラブなんざん:なし)
実施日	月曜日から金曜日 (長期休業中・学校行事による振替休業日も実施)	月曜日から土曜日 (長期休業中・学校行事による振替休業日も実施)
開室時間	・学校がある平日(放課後から午後5時まで) ・学校が休みの平日(長期休業中等) 午前9時から午後5時まで(お弁当持参)	・学校がある平日(放課後から午後6時30分まで) ・学校が休みの平日(長期休業中等) 午前8時30分から午後6時30分まで(お弁当持参) ・土曜日 午前8時30分から午後5時まで(お弁当持参)
おやつ	なし	あり(有料)
問合せ	放課GO→クラブなんざん(南山小学校内) 放課GO→クラブほんむら(本村小学校内) 放課GO→クラブこうがい(筈小学校内) 放課GO→クラブひがしまち(東町小学校内)	電話:3470-9699 電話:3473-4781 電話:3404-3301 電話:3451-7728



地域の交通安全活動

～長年にわたる功労から警視総監賞を受賞～

都内有数の繁華街として多くの人を訪れる街、六本木。

交通事故根絶をめざして活動する竜土町会会長のしょうさく 荏澤庄作氏にお話を伺いました。

交通安全活動

荏澤氏は竜土町会の会長になって20数年、交通安全のキャンペーンや啓発活動に力を注いできました。以前は「キャンペーンをやっても人が集まらない」「見知った人が多く照れくさかった」とおっしゃっていました。

交通功労者表彰において警視総監賞を受賞

平成24年5月18日交通安全活動に尽力する功労者に対しての表彰が警視庁で行われ、荏澤氏は警視総監賞を受賞されました。受賞を受けて荏澤氏は「町会や地域の方々の協力があって受賞できた賞です」と、また、受賞式後麻布警察署に戻ると署員の皆さんが迎えてくれ、「大変な賞をもらったことを改めて実感した」と話されていました。

地域の皆さんへ

「高齢者や小さなお子さんは交通事故に合う危険性が高いので、夜間等の外出時は目立つ服装を心がけ自己防衛に努めてほしい。また、自転車や自動車を運転する際は、歩行者に注意してルールやマナーを守って欲しい」と語ってくれました。

これからも安全安心な街をめざして活動を続けていきたいとの強い意志を感じました。



ザ・AZABU

●配布設置場所のご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書サービスセンター、南麻布・本村・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 尾崎恭彦	倉石哲良	福本綾子
Sub Chief 石山恒子	鈴木敏江	満木葉子
Staff 浅川一枝	大澤佳枝	高柳由紀子
大村公美子	折戸桂子	田中亜紀
加藤智恵	出石供子	鈴木大智
Junior Staff 石山 茜	大村 響	福田昭光
		福岡央翔

編集後記

KIDS'ハローワークのジュニア編集員として参加した娘が、今では高校3年生となった。当時中学生の彼女は、泉屋博物館分館で学芸員さん(Vol.6に掲載)取材した。その彼女が学芸員を目指すという…、何がきっかけかわからないが彼女の心に何かが芽生えたのであろうか。この情報紙を読んだ地域の子どもたちにも、そんなきっかけとなればと思う母心であります。(石山恒子)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752
Eメール/info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp

お手数ですが
80円切手をお貼りください

1068515

東京都港区六本木
5丁目16番45号

麻布地区総合支所
協働推進課
地区政策担当 行

郵送の手順

上下太枠部分(キリトリ線)で切り離します。

宛名面の裏側を張り合わせる

山折り 谷折り

中面のりしろ部分を貼り合わせる

宛名部分が表側に、アンケートが中側になるようにZ型に折って、のりで貼り合わせます。

麻布地域情報紙「ザ・AZABU」アンケート ご意見・ご感想をお聞かせください。

Q1 性別と年齢を教えてください。

- 男 女
- 0～10歳 20歳代 30歳代
40歳代 50歳代 60歳代
70歳代以上

Q2 「ザ・AZABU」は、公募により参加した地域の方が編集委員となり、取材や原稿作成を行っていることを知っていましたか?

- 知っている 知らない

Q3 「ザ・AZABU」ををどのような方法で手に入れましたか?(複数回答あり)

- 自宅に届く 麻布地区総合支所で
図書館で 駅構内で その他

Q4 「ザ・AZABU」21号の中で、興味・関心を持った記事はありましたか?(複数回答あり)

- 表紙(P1) 麻布びと(P2)
あざぶさんぽ(P3) KIDS'ハローワーク(P3)
麻布の“世界”から(P4) AzabuCool(P5)
地域社会のゆくえ(P5) 麻布の軌跡(P6)
その他[]

Q5 「ザ・AZABU」の評価をお願いします。

- 非常に良い 良い
あまり良くない 良くない

Q6 「ザ・AZABU」のご意見、ご感想、今後取り上げてほしいテーマをお聞かせください。

例)「麻布地域の〇〇の活動を取り上げてほしい。」

アンケートご回答の方全員に
麻布オリジナル
「旧町名バンダナ」を
プレゼント!

より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。

お名前 _____

ご住所 〒 _____

ご協力ありがとうございました。